平成２４年度相双地域医療体験研修（冬期）

実施報告書

期日：平成２５年３月４日（月）～５日（火）

ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

福島県相双保健福祉事務所

研修概要

平成２５年３月４日（月）から５日（火）の２日間、「地域医療体験研修（冬期）」を相馬市及び南相馬市において実施しました。

地域医療に関心を持つ福島県立医科大学ほか２大学の医学生７名が参加して、地域医療の現場視察と従事している医師との懇談や、仮設住宅等にいる地域住民との交流を通して、東日本大震災により大きな被害を受けた相双地域の医療問題について理解を深めるための研修を行いました。

研修日程

<table>
<tr><th>月日</th><th>時間</th><th>内容</th><th>場所</th></tr>
<tr><td rowspan="7">3/4
(月)</td><td>10：00～11：00</td><td>オリエンテーション（福島県立医大）</td><td>09：30　福島駅
10：00　医大</td></tr>
<tr><td>11：00～12：40</td><td>移動、昼食</td><td rowspan="6">南相馬市</td></tr>
<tr><td>12：40～14：00</td><td>震災被害状況視察</td></tr>
<tr><td>14：00～15：00</td><td>在宅診療同行（ひぐちクリニック）</td></tr>
<tr><td>15：00～15：30</td><td>スクリーニング体験（相双保健福祉事務所）</td></tr>
<tr><td>15：30～17：30</td><td>南相馬市立総合病院視察・副院長講話</td></tr>
<tr><td>18：00～20：00</td><td>医療従事者との懇談会・夕食</td></tr>
<tr><td rowspan="4">3/5
(火)</td><td>10：00～10：30</td><td>相馬市内見学（和田観光苺園）</td><td>相馬市</td></tr>
<tr><td>11：00～12：00</td><td>絆診療所視察</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">12：00～15：30</td><td rowspan="2">移動、昼食、解散</td></tr>
<tr><td>15：00　医大
15：30　福島駅</td></tr>
</table>

宿泊したホテル
「ロイヤルホテル丸屋」

移動に用いたバス

３月４日（月曜日）

オリエンテーション

今回の地域医療体験研修の趣旨を福島県立医科大学の大谷准教授より説明いただきました。

被災地視察（南相馬市小高区）

南相馬市小高区にてバスより下車し、被災地を視察しました。
同区は、平成２４年４月１６日に原発事故による「警戒区域」から「避難指示解除準備区域」に指定変更された地域です。まだ、震災の影響を色濃く残しています。内陸深くでも津波の被害がある一方、海に近い高台では被害が少ないのを見て、津波被害の特徴を知ることができました。

ひぐちクリニック在宅医療見学

郡医師会長の樋口院長が行う在宅医療に同行しました。
学生は、同院長と患者の方とのやり取りを間近に見学し、また先生に質問をしながら、在宅医療のしかたを学んでいました。

スクリーニング体験

相双保健福祉事務所にて実施している「放射線被ばくスクリーニング」を体験しました。その後、当所の保健師より「放射線被ばくスクリーニング」の概要や実績等について説明を受けました。

南相馬市立総合病院見学

南相馬市立総合病院を見学しました
及川副院長より「震災直後の医療について」及び「地域医療について」の説明を受けました。その後、病院内を見学しました。

医療従事者との懇談

相馬地域の医療従事者を招いた夕食会にて、先生方から震災後の地域医療の問題についてお話を伺いました。

３月５日（火）

和田観光いちご園

和田観光いちご園は、津波により被害を受けたいちご園ですが、今は通常通りの営業を行っています。

絆診療所及び遠藤先生による往診の見学

絆診療所を訪問し、診療所を見学しました。その後、遠藤院長の往診に同行し見学しました。

参加学生の感想

- 今回参加した相双地域の医療体験研修は福島県の他の地域医療体験研修に比べて特殊に思えます。津波や原発事故の影響を受けた土地だったからです。大震災から２年が経ち、私たちが住む福島市を含め、ある程度元通りの生活を取り戻した地域も多い中、南相馬市では震災の影響が大きすぎてとても元通りにはなっていませんでした。津波被害の視察で訪れた小高区はほぼ更地のように見え、津波の威力を初めて実感しました。その中でも新しそうな家で生活感を感じさせる所もあったりして、そこに留まりたいあるいは留まらざるを得ない人もいることを知りました。震災後、土地も変わり、住民の方々は避難する人、留まる人、仮設住宅住まいになる人と分かれましたが、それぞれに必要な医療があることが分かりました。それが南相馬市で実施されている地域医療だと学びました。見学させてもらった中ではひぐちクリニックや南相馬市立総合病院が南相馬市に住む人々をケアし、絆診療所は仮設住宅に住む人々を中心にケアしているようでした。震災前は南相馬市立総合病院と小高病院が南相馬市の総合病院として機能していたのが震災後は元通りにするのではなくその地域の現状に合わせて新たな形で地域医療を展開していたのでした。「医療を通して地域を見るのが”地域医療”」という言葉が印象的でした。

  震災前後で地域医療の在り方が大きく変容しましたが、ここに至るまでの変化も凄まじいものでした。福島第１原発から２３ｋｍ地点にある南相馬市立病院で起きた、震災直後の医療崩壊はまるで映画のように劇的でした。病院スタッフの激減、物資の枯渇、原発・放射能に対する不安……過酷な状況下で冷静に判断を下していく先生にひたすら敬服しました。

  今回の経験の中で、南相馬に暮らし、支える方々と関わり、思いにふれたことが大事だったと感じています。遠藤先生、及川先生を始めとして、医師の方々からは熱い思いを感じました。

絆診療所で話したおじいちゃんや樋口先生の往診先のご家族からは診療所や先生に対しての信頼感を感じました。参加した学生の中に、家族が原発の風評被害で苦しんだと話してくれた人がいたことも印象に残っています。

参加学生が群馬や滋賀などからも集まったほど、南相馬という地は強い関心を抱かせる場所だということです。看護師不足などの問題は続いていて深刻ですが、マイナスイメージばかりとらえず、特殊さを明確にして「売り」にすることで、おもしろい人々が寄ってきて面白い事が起こるかもしれないと感じました。何が特殊なのか、これからも関心をもって知っていきたいです。また、それをいろいろな人と共有していきたいです。

- 福島にいるのだから、テレビ画面を通してではなく自分の目で被災地の状況を確かめたい、そんな気持ちから相双地域での地域医療体験研修に参加する事を決めました。
参加者には福島出身者や福島医大生以外の方もいて、意識の高さを感じつつ、お互いの大学の様子や違いも分かり刺激になりました。

地域医療は、都市に比べて劣っているといったイメージが少なからずあったのですが、地域とは言っても、大きな病院では最新の設備があり最新の技術を学ぶ事ができるということを知り、考えを改めなくては、と思いました。地域だからこそ最高の医療を提供するべきだという及川先生の言葉にはハッとさせられました。

また、患者さんと話す機会があったのだから、もっと積極的にコミュニケーションをとりに行ければ良かったなと思いました。医学生として患者さんと接する事は今までなく、どのようにすればよいか分からず戸惑ってしまったのですが、次このような機会が得られたときは是非いろいろな方とお話ししたいです。

予定が合えばぜひまた参加させていただき、学校の授業では学べないことを学べたらと思います。

- 今回の地域医療体験研修で、最も印象に残っていることは、地域医療は地域住民に密着した医療であって、決して都市部と比べて劣った医療ではあってはならないという言葉でした。これは当然の事であるはずなのに、どこか地域医療と聞くと、遅れた医療、最新の医療技術や知識が学べないといった印象を受けるのも事実です。これが、地域医療にたずさわる人が増えない理由の１つになっていると思います。

実際に、地域医療の現場で働く医師の話を聞いて、地域住民に寄り添った医療であり、心のケアはもちろん、少ない医療関係者で協力して患者の望む最高の最善の医療を行う場であることを再認識できました。

現在福島は震災の影響もあり、医師や看護師不足が大きな問題になっています。福島は地域医療という観点だけではなく、震災医療という新たな問題を抱えています。仮設住宅に住むことによりおこる心や体の問題、低線量の放射線を浴びることによりおこる問題等、医療関係者が担う役割が大きくなってきている状況です。このような状況を実際に福島で働く方々から話を聞き、今後の自分の進むべき道について深く考える時間を持てたこと、とてもうれしく思います。

またこのような研修があれば積極的に参加したいです。

- 今まで何度か相双地区を訪ねたことはあったのですが、震災後は今回が初めてでした。テレビ等で津波の被害や町の様子はある程度知っているつもりでしたが、実際に自分の目で見てみるとかなり衝撃を受けました。今回視察させていただいた小高区は昼間しか滞在できないという状況だったので、町は閑散としており、海岸付近には修復されていない民家が沢山ありました。

  そのような厳しい状況でも南相馬市でご活躍なさっている先生方にお会いすることができ、私は非常に感銘を受けました。南相馬市立病院では、副院長先生のお話が大変印象に残りました。「地震後、放射能の不安がある中で、病院の運営はどうするか。」という先生が私たちに投げかけてくださった問いはとても難しいものだと思いました。医師は度々答えがない問いに直面しますが、学生のうちから多面的に物事を考えられる力を養いたいなと思いました。

  絆診療所では、お医者さんと患者さんの絆の大切さを学びました。ただ病気を治すということだけが医師の仕事ではありません。本当によい医療に必要なのは、医師と患者さんの心のつながりだと思いました。絆診療所には高度な医療機器はありませんでしたが、避難されている患者さんに本当に必要な医療が提供されているなと感じました。震災によって今までのつながりがかなり消失してしまったというコミュニティーも結構見られますが、コミュニティーの崩壊は一番避けなければならないことだなと思いました。

  今回の研修には、遠方から参加なさっている方もおられました。他大学の学生との交流も非常によい刺激になりました。これからも連絡を取り合えるような仲間を全国各地に作ることができるのもこの研修の大きな魅力だと思います。

  この研修は本当に実り多いものでした。今回の研修によって地域医療災害医療に対する関心がさらに高まりました。是非又参加してみたいと思っています。皆さんも是非参加してみてください、見聞が大いに広がりますよ。

- まず医大集合でオリエンテーションから入りました。大谷先生の予習講義から自己紹介等、研修に入り込みやすかったです。移動中も今回であった人たちと会話をして楽しみました。初めて被災地視察をしました。ただただ何もない土地。説明がなければ勝手に農地だと思っていた。ふと家を見ると二階は普通の家なのに不自然に削れたような様子。電柱だったもの、つぶれた車、新しい道路。見るもの全てが新感覚で、自分の少ない知識では言葉にできない表せないものでした。たった１つ、確実に言えることは、来て良かった、の一言だけ。衝撃的で、印象的で、復興の現在の一端を表現する姿でした。福島にいて、やっと来ることができた場所です。震災から２年、メディアでは「まだ」とよく表現するけれど、あの津波の映像を思い浮かべると、個々まで人が生活できるような地にしてくれた多くの人々に感謝したいと思いました。地域医療研修の要、在宅診療に同行させていただきました。今、多くの分野で分担して在宅医療を支えているのだな、と感じました。

- 自分が将来関わる医療としてしっかり目に焼き付けようと思います。総合病院では、当時の状況を鮮明に語っていただき、風化させてはいけない、未来への教訓にせねば、と強く思いました。病院、診療所、保健所の方々との懇親会には得るものが多いだけではなく、とてもおいしく楽しく充実した時間を過ごすことができました。絆診療所にはとても考えさせられました。全額自費の設備、仮設住宅への往診、模範的な医療の在り方だが、なかなか自分では決心がつ

かない。凄いことであるが、望ましいのは診療所が無くてもその地域が支えられる状況。うまく言葉に表せないが、複雑だと思ってしまいました。今回の視察は、得るものが多く、正直未だに消化できているか自信はない。ただ、また来たいと思います。準備から説明等、何もかもしていただき、ありがとうございました。

- 今回、被災地と地域医療の現状を見るために、参加させて頂きました。被災地ではマスメディアの情報だけでは分からない、被災・被曝の一端を垣間見て大きな衝撃を受けるとともに、今後も被災地・原発問題の情報を積極的に集めて、当事者意識を持ち続けようと思いました。また、地域医療に関しては、自分たちの人生を、時には命をも懸けて患者や地域住民のために必要な質・量の医療を堅持しようと努力されてきた現役医師の姿を見て、医療の本質や地域医療の魅力を感じ取りました。今回いただいた学びを自分の周りに少しずつ伝えるとともに、より勉学に励んで病気のことも理解し、将来、災害医療や地域医療の戦力となれる人材になりたいと思った。

平成２４年度　　平成２５年３月

地域医療体験研修（冬期）実施報告

編集・発行

福島県相双保健福祉事務所　総務企画部総務企画課

〒975-0031　南相馬市原町区錦町１丁目３０番地

電　話　0244-26-1326

ＦＡＸ　0244-26-1332

http://www.pref.fukushima.jp/sosohofuku/

E-mail:sousou.hokenfukushi@pref.fukushima.lg.jp